



## 判断、決断すべきは人なのです

今年度は、世界中が「ロシアとウクライナ」について、注目が集まりました。本来ならばこの時期は、新型コロナ感染を克服しつつある世界が回復に向けた活動が広がり、経済活動などもコロナ前にもどっていくはずでした。しかし最近では戦争の影響もあり、物価高やエネルギー不足、食糧不足の心配も出てきました。我が日本でも円安による輸入品の高騰に悩まされています。

戦争終結に向けた対応については、これだけ科学や技術が進歩し、多くの根拠となる経験がありながらも、最後は人間の感情のみで、一つ一つの対応について判断していくことになります。今後一日も早く戦争の終結を願うばかりですが、「決断すべきは人間」という人が負うべき責任の重さを、改めて感じるばかりです。と同時に、こうした時にこそ人としてとるべき思いやりや態度について考えることも必要かと思います。世界でどんなに技術革新や科学が進歩したとしても、判断や決断は人間がしていくことも考えれば、求めることは人間力の育成だと思います。教育の面から見れば、判断力や思考力、人権感覚など多くの力を身につけるために、どんな学びが必要となるのか、今一度考えることが大切かと思います。混沌とした将来を生きていく子どもたちに、こうした能力を身につけさせることも、学校教育の大切な役割と考えています。

3 月 17 日は 6 年生が学校の締めくくりである卒業証書授与式を举行します。卒業式は学校行事であるので、当然教育的なねらいがあります。

- ①卒業する喜びを一人一人に味わわせることにより、本校の卒業生であることに誇りを持たせ、学校・家庭・地域社会などに対する感謝の念を醸成する。
- ②卒業生の前途を祝し、先輩の残した立派な伝統を受け継ぎ、さらに向上・発展に努める心構えを育てる。
- ③集団の場における規律と礼儀正しさを養い、気品ある態度を育てる。

本校では、在校生・卒業生がそれぞれの立場で自分の心を育て、ひたむきに自分の気持ちを相手に伝わるような卒業式にしたいと考えています。

卒業生「ありがとう」「さようなら」

在校生「おめでとう」「ありがとう」「さようなら」

これらの心は、今から育てるのではなく、すでに卒業生と在校生の人間関係の中で培われている思いをより明確にすることでより強くしたいと思います。これまでの学校生活や縦割りの活動の中で、卒業生にお世話になった出来事やいっしょに遊んだ思い出を呼び起こしていけば、心は自然に育つと思います。

児童にとっては一生に一度の卒業式、集中力を持続させ、しっかり感動的な歌声を体育館に響かせ、起立・礼・着席などの動作もきびきび行うことを期待しています。